

インド「よいとまけ」物語 28

2月10日(続き)

夕方近くは皆で協力して、作業に当たってくれました。



ジェイラムも整地。



ピカルマードは職人押しにかけて、格子設置。金槌で指を打ち出血。



バガジーも整地。



ペンキ屋のおじさんは草刈の手伝い。
ムニブも草刈。



ギャンとサテッシュとジェイラムはDrにお金を貰って買い出しに。



サテンダーも整地。

ゴパールはお茶配り。

Drを始め、Ananda Hp 職員全員で15日の為に一所懸命に働いてくれました。Drの獅子奮闘に職員が応えてくれています。

Thank you, Dr and Staff.

ホールは通電しているので、発電機を動かし、石屋さんが磨きに精を出しています。落成式は素晴らしい物になるでしょう。力を合わせ、息を合わせて頑張ってくれた事は、日本人として感謝します。 ありがとう。

このホールには貴重品を置くこととなります。居室の天窓には格子がありませんが、ホールには格子が付けてあります。勿論、泥棒よけです。鉄製の丈夫なものです。窓枠もDr曰く「丈夫な木でHpの木枠のダブルプライス」だと言ってました。



窓はだですがその内入るでしょう。



この機械も優れものです。凸凹も無くなりました。

この日もDrは進捗状況を観察です。診察も、マネジメントもこなして忙しい毎日です。



もう、8時です。お休みなさい。